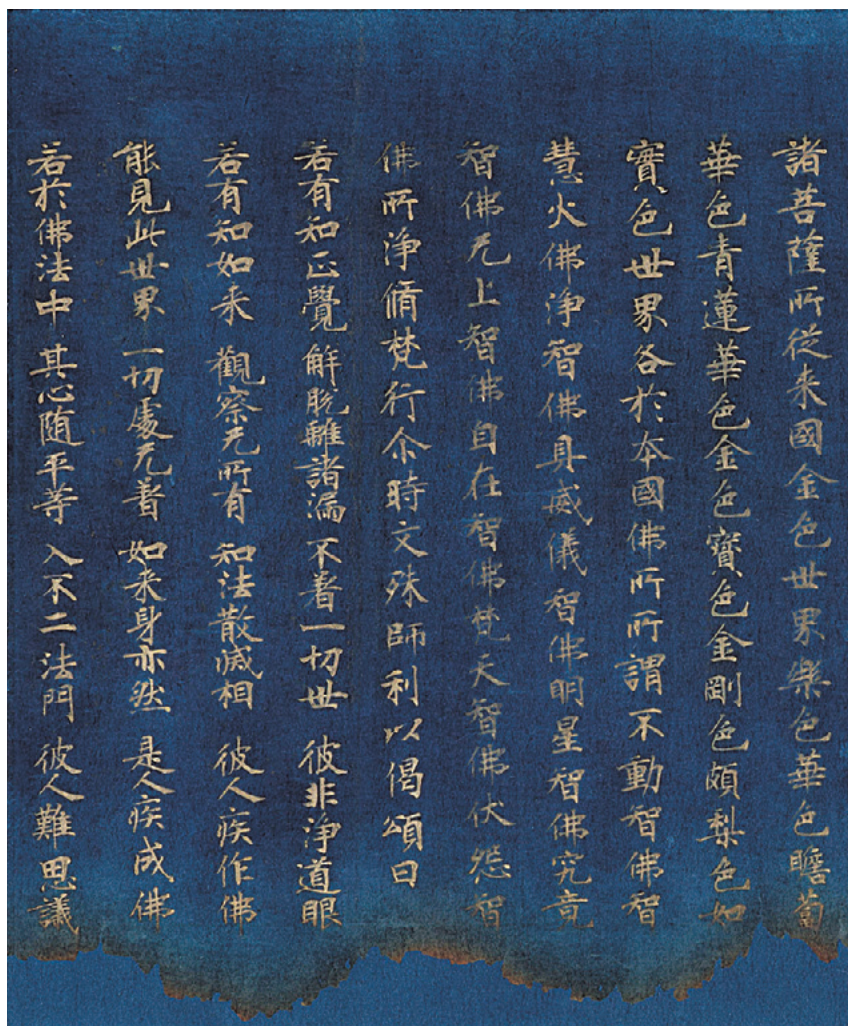


Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **116** 号

令和3年 1・2・3月



華嚴經（二月堂焼經）（当館）

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

ー特集 神鹿の造形ー

～1月17日(日)

東新館

特集展示

新たに修理された文化財

～1月17日(日)

西新館

特別陳列

お水取り

2月6日(土)～3月21日(日)

東新館

特別陳列

帝国奈良博物館の誕生

ー設計図と工事録にみる建設の経緯ー

2月6日(土)～3月21日(日)

西新館

名品展

珠玉の仏教美術

～3月21日(日)

西新館

珠玉の仏たち

2月23日(火・祝)～

なら仏像館

中国古代青銅器

2月23日(火・祝)～

青銅器館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

―特集 神鹿の造形―

～1月17日(日)～

春日若宮おん祭は、春日大社の摂社である若宮神社の祭礼で、平安時代の保延二年(一一三六)に始まったとされ、今年で八八五年目を迎えます。本展覧会は、絵画や文献史料、芸能資料等を通じて、おん祭の歴史と祭礼の様子を展示する恒例の企画です。今回は、おん祭を描いた絵画や祭礼に関連する品々をご紹介しますと共に、春日信仰の中で数多く生み出された神鹿(しんろう)に関わる美術を集めました。春日の神とともに神聖視され、礼拝の対象となった鹿。神々しく、時には愛らしいその姿を、様々な美術品を通してお楽しみいただきます。



鹿座仏舎利(奈良・春日大社)

特集展示

新たに修理された文化財

～1月17日(日)～

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するものです。また、その修理内容についてもパネルで紹介いたします。



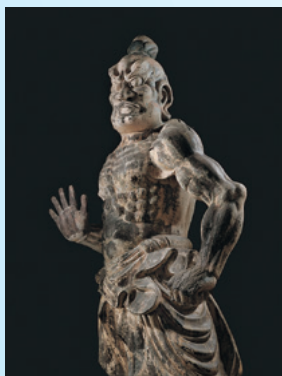
重要文化財 道宣律師像(当館)修理の様子

特別公開

金峯山寺仁王門 金剛力士立像

2月23日(火・祝)～

なら仏像館では、奈良・金峯山寺所蔵の木造金剛力士立像(重要文化財)を、二月二十三日(火・祝)より特別公開いたします。この二軀の像は、同寺仁王門(国宝)に安置される像高五メートルに達する巨像で、像内の銘文によって南北朝時代の延元三年(一三三八)から翌年にかけて、南都大仏師康成により造られたことがわかります。令和元年(二〇一九)夏に仁王門の修理のため搬出され、当館の文化財保存修理所での保存修理を終え公開いたします。門の外でその勇姿を目の当たりにする貴重な機会です。



重要文化財 金剛力士立像(奈良・金峯山寺)



なお、この特別公開の準備のため、令和二年十二月二十一日(月)から令和三年二月二十二日(月)までの間、なら仏像館および青銅器館を臨時休館いたします。ご理解のほどお願い申し上げます。

お水取り

東大寺の二月堂で、毎年三月一日から十四日にかけておこなわれる「修しゆ二に会え」は、別に「お水取り」とも呼ばれ、人々に親しまれています。この特別陳列は、「お水取り」の時事にあわせて開催している恒例の企画で、二月堂や「お水取り」にまつわる様々な品、そして実際の法会で過去に使用された仏具などの展示を通じ、天平勝宝四年（七五二）に法会が創始されて以来、千二百七十年に及ぶ長い歴史と、込められた深い信仰等を紹介します。



二月堂縁起断簡(奈良・東大寺)



柄香炉(奈良・東大寺)



二月堂修中過去帳(奈良・東大寺)

帝国奈良博物館の誕生

—設計図と工事録にみる建設の経緯—

2月6日(土)～3月21日(日)

帝國奈良博物館（現在の奈良国立博物館なら仏像館）は明治二十七年（一八九四）十二月に竣工し、翌年四月に開館しました。設計は宮内省内匠寮技師の片山東熊が担当し、奈良県に誕生した最初の西洋建築として知られています。近年おこなわれた設計図と工事録の分析により、建物の建設の経緯が詳しくわかってきました。濃尾地震（明治二十四年）を経験して堅牢性を重視したこと、窓からの採光の工夫、兩仕舞への配慮、さまざま要因による工事の遅延など、国内での事例がまだ少なかった博物館建築を生み出すために関係者たちがたどった道のりを振り返ります。

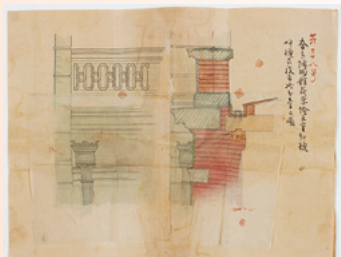


帝国奈良博物館 明治27年竣工時



奈良博物館新築表昇降口兩脇盲窓迫持楔石正寸之図

奈良博物館正面昇降口矩計貳拾分表之図



奈良博物館新築絵画室軒樋呼樋取設方拾分壺之図
(以上、「内匠寮奈良博物館建築工事図面」のうち 当館)

コロナ禍の正倉院展

当館学芸部長 内藤 栄

第七十二回正倉院展を開催するか、あるいは中止かの判断は、新型コロナウイルス感染拡大の第一波のピークにあった春先に下す必要があった。折しも、当館の特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」が会期半ばで閉幕となり、多くの博物館や美術館が休館に追い込まれた時期である。しかし、終戦の翌年に国民を元気づけるために始まった正倉院展を、ここで止めてはいけないという想いが、当館と宮内庁正倉院事務所の職員たちにあった。

開催を実現するには三密対策が条件になる。例年正倉院展は十七日間で二十万人強の来館者がある。観覧者が二メートルの間隔で約一時間鑑賞すると仮定して、一時間の滞留者数を三〇〇人前後と割り出した。チケット購入の混雑を考えれば、ネット予約による日時指定券を用いるのが最適と判断し、当日券は販売しないことに決めた。総入場者数は例年の五分の一から六分の一の程度になる。

日時指定を導入すれば、チケットを入手できない方が大勢いらつしやることになり、それが正倉院展に携わる者たちにとって大きな課題であった。また、コロナ禍にあり外出を避ける方も少なくないであろう。そこで、ネットで正倉院展を観覧できる動画を制作することにした。特別協力の読売新聞社と協力の読売テレビに全面的に支援いただき、当館学芸員がギャラリートークをしながら館内を解説する動画を制作した。4K映像による宝物は細部まで鑑賞することができ、家で正倉院展を楽しめると好評であった。

動画制作は博物館独自でも行った。いくつか作った中でも、正倉院宝庫における点



展示作業(奈良博チャンネルの動画より)

検作業、宝物の梱包作業(以上は正倉院事務所の撮影データを使用)、当館での開梱・展示作業の動画は、これまで一般に知られることのなかった正倉院展の裏側の作業を公開する初めての試みとして画期的であった【写真】。なお、例年海外から正倉院展を観覧に訪れる方も大勢いらつしやるため、多言語による正倉院展の解説動画も制作した(今回は試験的に韓国語版を制作した)。

もちろん、例年実施していたことを断念した例もある。ボランティアによる講堂での解説や、庭園を見ながらの抹茶の提供がそれである。前者は鑑賞前に解説を聞くことで理解が深まると好評であり、アンケートでは来年における再開を望む声が寄せられた。また、公開講座の聴講は人数を半分に減らし、ネットでの事前予約制とした。

長い正倉院展の歴史の中で、何もかもが初めての試みであった。開幕後の心配の種だった入館時の混乱と館内の三密、そしてクラスターの発生は、いずれも無事乗り切ることができた。これもマスク着用、会話禁止、ソーシャルディスタンス、消毒徹底などと呼びかけるスタッフの声に耳を傾けてくださった、来館者の皆様のご協力のためものと厚く感謝申し上げる次第である。

■特別陳列 「おん祭と春日信仰の美術―特集 神鹿の造形―」
1月9日(土) 「春日大社と神鹿の造形」
渡邊 亜祐香 氏(春日大社国宝殿学芸員)
[受付期間/12月14日(月) 10:00~1月8日(金) 17:00]

■特別陳列 「お水取り」
2月20日(土) 「修二会について」
筒井 寛昭 師(東大寺長老)
[受付期間/1月25日(月) 10:00~2月19日(金) 17:00]

■特別陳列 「帝国奈良博物館の誕生
―設計図と工事録にみる建設の経緯―」
3月13日(土) 「帝国奈良博物館の誕生 一人と建築―」
宮崎 幹子(当館学芸部情報サービス室長)
[受付期間/2月15日(月) 10:00~3月12日(金) 17:00]

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 90名(事前申込先着順)
【申込方法】 当館ホームページ「講座・催し物」内の「公開講座」応募フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。
【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。
※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。
※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。
※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。
※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

◆奈良国立博物館賛助会

令和2年12月31日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)13団体、一般会員(個人)73名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、
(株)葉風泰夢、桃谷樓
〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー
〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、
(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、
(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、
奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、
小山(株)、茶道裏千家淡交会奈良支部、
オフィス・カワイ
〔個人会員(新規)〕 矢澤 実穂様 令和2年10月ご入会
細井 博子様 令和2年11月ご入会

◆キャンパスメンバーズ

春の特別展ではキャンパスメンバーズを対象に、学芸員による解説付き鑑賞会を実施する予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

令和2年12月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。
大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部、関西学院千里国際高等部、関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学(以上、五十音順)

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■1月17日(日) 「文化財を科学するⅦ」
鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)
絵画や彫刻など多くの文化財は彩色(着色)されています。今回は彩色材料を調べる方法とその彩色材料についてお話ししたいと思います。
[受付期間/12月28日(月) 10:00~1月16日(土) 24:00]

■2月21日(日) 「仏都会津のみほとけたち」
内藤 航(当館学芸部研究員)
福島県の会津地域は、平安時代のはじめに奈良の僧・徳一が訪れたことを契機に仏教文化が花開き、仏像も数多く造られました。奈良とは一味違う、魅力的なみほとけの数々をご紹介します。
[受付期間/2月1日(月) 10:00~2月20日(土) 24:00]

■3月21日(日) 「舍利信仰の美術―舍利容器の形から信仰を読み解く―」
内藤 栄(当館学芸部長)
鎌倉時代を中心に、日本で生まれた様々な形の舍利容器を紹介いたします。多様な形は多様な信仰や複雑な法要が背景にあることをお話しします。
[受付期間/3月1日(月) 10:00~3月20日(土・祝) 24:00]

■4月18日(日) 「災害から文化財を守る―文化財防災センターの取り組み―」
佐藤 稜介(当館学芸部研究員)
わたしたち国立文化財機構は、文化財防災センターを昨年秋に立ち上げ、大規模災害に備える活動を進めています。平時と災害発生時、それぞれで行われている、文化財を未来に伝えるための活動についてお話しします。
[受付期間/3月29日(月)10:00~4月17日(土) 17:00]

■5月16日(日) 「平安貴族の信仰生活―仏教を中心に―」
斎木 涼子(当館学芸部主任研究員)
平安時代、貴族たちが仏教を熱心に信仰していたことはよく知られています。華やかな仏事だけではなく、日常生活のなかでどのように信仰が形作られていたのか、史料を通じてご紹介します。
[受付期間/4月26日(月)10:00~5月15日(土) 17:00]

■6月20日(日) 「ならはくのエデュケーション」
翁 みほり(当館学芸部研究員)
文化財の魅力や大切さを伝えていくために、ならはくではさまざまな教育普及活動を行っています。日々どのような取り組みを行っているのかをご紹介します。ならはくビギナーの方におすすめです。
[受付期間/5月31日(月) 10:00~6月19日(土) 17:00]

【時 間】 各回とも14:00~15:30 (13:30開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 各回90名(事前申込先着順)
【申込方法】 当館ホームページ「講座・催し物」内の「サンデートーク」応募フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。
【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。
※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。
※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。
※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。
※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

クマ形土製品

おのえやま
青森県尾上山遺跡出土
土製
全長14cm
縄文時代晩期
(紀元前1000年～前400年)
青森県立郷土館



クマを象った中空の土製品。足先や耳、尾を欠いているが、口元には上下二本ずつ牙が表され、また、胸に刻まれたV字の表現から、三日月形の斑文を持つツキノワグマを造形したものと考えられる。胴体には、縄文時代らしい縄目模様が隙間なく巡らされ、まるでフサフサとした毛なみのようにも見える。実物を熟知した人の手によるものだろう。

クマの造形の出土事例は、縄文時代後期・晩期の東北地方北部から北海道において、多く確認されている。本品のようにクマの全姿を表したのもあれば、口縁部にクマを象った突起を設けた土器、クマの頭部を彫り出した石製品などもあり、一定の“クマ”ブームが存在したようだ。当時の人々にとってクマは身近な存在であったことが想像されるが、一方で、発掘調査によって遺跡から出土する動物骨はイノシシやシカなどに比べると大変少ない。クマと人は、他の動物と人とは異なる特別な関係を築いていたことが窺われる。

縄文時代に盛んにつくられた種々の動物造形の中でも、立体感の表現と描写の細やかさに優れた佳品である。

中川 あや(当館学芸部列品室長)

展示品の みどころ

しょうとく たい し え でん 聖徳太子絵伝

重要文化財
絹本着色
各縦129.8cm 横116.4cm
室町時代(16世紀)
奈良・橘寺

本年は、日本仏教界において宗派を超え大きな存在で在り続けた聖徳太子の1400年御遠忌である。当館では今春これを記念した特別展を予定しているが、2月22日の忌日を前に、名品展でも聖徳太子信仰に関わる絵画を特集して展示する。

ここにご紹介する聖徳太子絵伝は、太子誕生の地、勝鬘経講讃の地と伝わる太子ゆかりの寺院である橘寺(奈良県高市郡明日香村)が所蔵する八幅からなる大規模な絵伝である。第1幅は上から下へ、第2幅は下から上へというように順序立てられ、全8幅で太子の誕生から薨去、そして薨去後の出来事をほぼ時系列順に描く。その内容は平安時代に成立した聖徳太子の伝記『聖徳太子伝暦』に概ね準拠し、はっきりした画風とあいまって、比較的分かりやすい構成といえる。

画風から、室町時代に奈良で活躍した絵師、琳賢の周辺で描かれたと考えられる。図様を見ると、平安時代の延久元年(1069)に描かれた法隆寺絵殿の聖徳太子絵伝(法隆寺献納宝物、東京国立博物館蔵)からの踏襲が認められ、奈良の絵師が、奈良における太子絵伝の伝統を継承しながら描いたことが分かる。また、色紙型には勝鬘経講讃を橘寺での出来事と注記するなど、当初より橘寺のために描かれた絵伝と考えられよう。

この八幅が一堂に展示される機会はおおよそ20年ぶり。この機会に聖徳太子の伝記を深く知っていただくとともに、太子信仰を支えた人々の思いを感じていただければ幸いである。

北澤 菜月(当館学芸部主任研究員)



第7幅

◆西新館 3月21日まで、名品展「珠玉の仏教美術」にて展示。

◆西新館 1月13日～2月14日、名品展「珠玉の仏教美術」にて展示。

■開館日時(1月～3月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※延長開館日はありません

■休館日／毎週月曜日、1月1日

※2月8日(月)、3月1日(月)・8日(月)は開館します。

※1月11日(月・祝)は開館し、1月12日(火)は休館します。

■新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染防止のための対策を行っています。ご来館に際してはマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。アルコール消毒や手洗い、検温等にご協力ください。

なお、展示やイベント等につきましては、状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリロID(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズの学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■なら仏像館・青銅器館の臨時休館について

令和2年12月21日(月)～令和3年2月22日(月)の間、大規模な展示替えのため、なら仏像館・青銅器館は休館となります。休館に伴い、1月19日(火)～2月5日(金)は西新館名品展のみの開館となりますので、一般350円、大学生200円といたします。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通、市内循環バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。